

令和5年度  
公立大学法人長野県立大学の業務の実績に関する報告書  
参考意見書

令和6(2024)年9月

公立大学法人長野県立大学評価委員会

本参考意見書は、法人運営全般の改善や教育研究の質の向上を目的として、評価結果報告書に記載された中期計画及び年度計画に対する評価コメントとは別に、法人への期待や要望、今後参考となる事項を取りまとめたものです。

大項目	小項目 番号	項目の内容	内 容
1 教育 (1) 人材育成の方向	11	大学院ソーシャル・イノベーション研究科	大学院で養成する人材の方向性に対して、実際の履修内容がどうであったかをアンケート結果を踏まえて検証していただきたい。
	12	大学院健康栄養科学研究科	健康栄養科学研究科は、ソーシャル・イノベーション研究科より研究内容や成果等の情報発信が少ないと感じ、県立大学として公平性・透明性の観点からも広報に力を入れていただきたい。
	14	海外プログラム	経済的事情だけにより渡航型に参加できない学生がいたのであれば、大変残念なことであるため、更なる経済的支援を望みたい。
1 教育 (2) 入学者の受入れ	25	入学者確保のための広報活動	本学の研究科にとって、県内市町村職員への入学勧誘は非常に重要なことと考えられます。県内企業への対応も含めて、県内全域での「説明会」の開催に期待する。
1 教育 (3) 教育の質の向上	30	予習・復習における学務システムの活用	学習時間調査の結果、学生の予習・復習時間がとても少ないため、学生の日常的な学びを促進するためにシラバスの改良などの工夫に取り組んでいただきたい。
	34	F D研修	F DやS Dはより良い大学、授業を目指すことにおいて重要であり、大学やその構成員の姿勢を示すものである。5回の研修の内容がすべて異なるのであれば、1回以上という目標達成だけに留まらず、更なる研修受講体制の強化に期待する。
5 研究	55	長野県に関する資料の選択的な収集	長野県立大学は長野県のシンクタンクとしての役割を期待されているため、各市町村が作成している政策に係る報告書等の収集もご検討いただきたい。
	56	科学研究費補助金に係る教員の申請率	例えばF D研修を活用するなど、新規申請者が増えるように引き続き検討していただきたい。